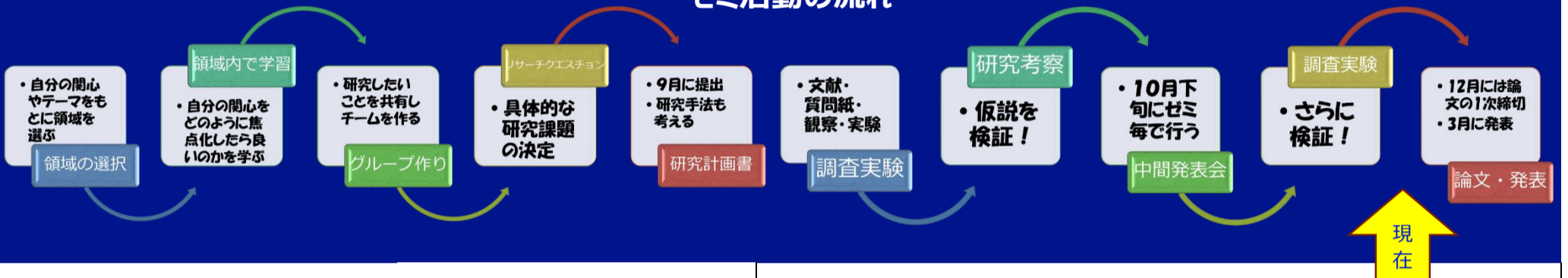


この通信を通じて、総合的な探究の時間や各授業、学校全体での探究活動への取り組みを皆さんにお知らせしていきます。

2年ゼミ活動本格稼働

～答のない問いへの挑戦～

ゼミ活動の流れ



最初は、自分の興味関心をもとに大きく3領域に分かれ、その中でグループ作成&テーマ設定をすることからスタート！1年次のプレゼミを振り返って、その反省を生かしながら取り組みます。

人文・社会 領域

法学・政治学・歴史学、
文学・心理・言語・芸術
地理・国際・地域・文化
経済・経営

サイエンス・テクノロジー 領域

物理、生物、化学、
情報、防災

生活・健康・教育・人間 領域

健康・スポーツ、栄養・住環境
教育、心理、医療

現在、94グループがそれぞれ活動しています。

夏休みには
知識の蓄積と研究の土台作り!

ブックレポート課題

研究テーマについての本を最低一冊読む。グループでシェア。

研究計画書

リサーチクエストを設定。
研究手法を考える。

2学期は、情報収集・実験等を繰り返して、研究を深める。

ブックレポートの参考にと、教員のオススメ本60冊を『推薦図書リスト』にし、一部を図書館に展示しました。

中間発表会

10月23日には、各分野で中間発表会を行いました。各グループ毎に、「研究の進捗状況」と「今後の課題・計画」を発表し、質疑応答も行われました。他の生徒からの積極的な質疑により、研究を進めていく上での新たな課題を把握できたグループもあったようです。今年はコロナの影響で調査・研究期間が短いのですが、G Suiteのドライブ機能を活用して授業外でも研究を進めているグループもあります。

調査実験

中間発表での課題をもとに、さらなる調査実験を行っています。校外にも積極的にアプローチし、高齢者福祉施設や学校などに質問紙法による調査を依頼しているグループもあります。

論文準備

3月には論文集を作成するので、その準備にも入っています。研究発表会も予定されており、1年生も見学します。その他、校外の研究発表大会に参加するグループもあります。



授業飛び出し 自ら探究!

今年度は、学校外のコンテスト等にも積極的に参加してほしいということで、様々な情報を提供しています。

コロナ禍の中で大きな制約があるという状況にもかかわらず、例年以上に学校外での挑戦をする生徒たちが見られました。

ここで紹介している2例だけではありません。各種海外派遣や探究発表など、様々なフィールドに進出しています。



■模擬国連全国大会出場



模擬国連は、1923年にアメリカのハーバード大学で発祥し、参加者一人一人が国連加盟国の大使として国際会議をシミュレーションすることを通して世界が抱える幅広い課題について考える活動です。

日本では2007年に高校生模擬国連を担う団体としてグローバル・クラスルームが設立されて以来、本年で14回目です。本来なら東京にて開催されるところですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学校からのオンライン参加になりました。

今年度の議題「宇宙利用」について、青陵高校の生徒はロシアの大使として会議に参加し、すべての国の利益のための宇宙利用のあり方、とりわけ宇宙資源の利用について様々な国の立場から議論を進めました。結果としては、入賞を逃しはしたが、論点を整理して考えを共有しながら、国連会議をいかに実り多きものにするかを学びました。

(11月14日(土) / 15日(日)) : オンライン開催

■「台湾のIT(デジタル)大臣オードリー・タン氏と高校生が『近未来の教育について考える』シンポジウム」の視聴会

青陵グローバルプロジェクトの一環として、11月16日(月)16:00~18:00本校図書館にて、視聴会を開催しました。現在世界でも影響力のある人物の一人、オードリー・タン氏と九州地区の県立高校生が「世界的デジタル時代に、日本の高校生は何をすべきか」をテーマに話し合い、その様子をオンラインにて視聴する会でした。

高校生による「AIと人との関係は?」という質問に対して、タン氏は「AIは人と人をつなぐことでコミュニケーションの手助けをするものであり人間を排除するものではない。人と一緒に協働でものごとを考えて問題解決をするものである。」と答えました。

起業については、人々が何を必要とし求めているのかを捉えなくてはならない。これが出来ていないままプロジェクトを進めても、得られるものは少ない。デザインとはこの必要性を形にしていけることであり、そして、自分の世界観を言語化することの大切さを訴えています。

学びは学校の中だけにあるものではなく、SDGsの169のターゲットを参考に自分の興味関心に応じて深い学びに取り組んでほしいと願っています。「全てのものには裂け目がある。よって、そこから光が入ってくる。」という言葉は何度も用いて難問に立ち向かう姿勢を高校生に伝えてくれた会となりました。



メディアリテラシー → デイベート → 小論文

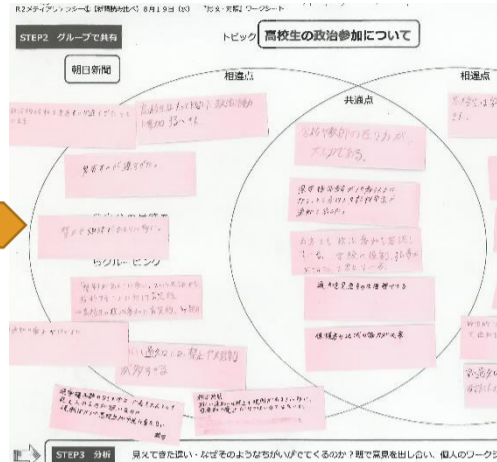
1年青陵探究

2学期はメディアリテラシー（M.L.）からスタート！新聞の読み比べをしたり、フェイクニュースを用いて情報の真偽について考えたり、多角的に物事をとらえる練習としてクリティカルリーディングをやってきました。そしてここで意識できた「疑問を持ちながら、様々な視点から物事を考える」という姿勢を次のデイベートに応用しました。特に、デイベートの準備では相手がどのような立論をしてくるかを様々な角度から予測し、それぞれの意見に応じたパターンがしっかり作れていたようです。練習試合・本戦では白熱した戦いを見せてくれました。

M.L.①新聞読み比べ

「高校生の政治参加」について書かれた全国紙2紙の記事を、ベン図というシンキング・ツールを用いて読み比べしました。

【生徒の振り返りから】
 ・記者の視点、ターゲット層、表現の仕方によっても随分差があることに気づき、面白かった。
 ・班員や他班の意見を聞くことで自分では思いつかない意見をたくさん聞くことができた。



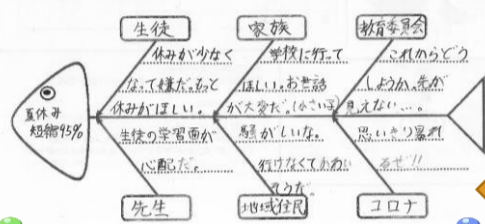
デイベート①準備

最初は与えられた論題について、肯定・否定の立場に関わらず、情報カードを使って広く情報収集します。多くの生徒が資料を熱心に読み込んでいました。

次に、こちら側の立論と予測されるアタック & それに対するディフェンス、そして相手側の立論も予測してどうアタックを構成するかなど、様々なパターンを想定してマッピングをしていきます。活発に討議し、マッピングもどんどん枝葉が伸びていく様子が見られました。



フィッシュボーン



【生徒の振り返りから】
 ・目に見える情報だけが全てではないと学んだ。思い込みにとらわれてはだめ。
 ・他の情報と比べたり思い込みを捨てて、いろいろな立場から情報に接することが大切だと分かった。

M.L.②情報の真偽を考える

『虚構新聞』の記事を用いて情報の真偽について考えたり、フィッシュボーンというシンキング・ツールを用いて多角的に新聞記事を読む練習もしました。

M.L.③クリティカル・リーディング

「なぜ」「どうして」…など、様々な引っ掛かりを持ちながら読むのがクリティカル・リーディングです。新聞記事を用いて演習を行いました。これが次のデイベートに生きてきます。



デイベート②練習試合・本戦

マッピングで大体の構成ができたなら練習試合を行います。クラス外にて他のクラスと対戦です。そして対戦後は、本番に向けて反省と再調整。

本戦はクラス内対抗です。論戦の状況によっては、「おお〜っ！」と歓声があがることもしばしば！最後には勝敗とともに、ベストディベーターも決定。友人の良いところをしっかりと学べ、次に生かしたいと思った生徒も多かったようです。

3学期は…いよいよ「プレゼミ」へ
 2年生でのゼミ活動にスムーズに取り組めるように、「問い」の立て方～リサーチクエスチョンの設定の過程に重点を置いて、課題研究活動のサイクルを体験します。

探究は青陵探究・ゼミだけじゃない！

様々な授業で探究的な学習が行われています

1年家庭科



現在、ホームプロジェクトに取り組んでいます。
 ホームプロジェクトは自分の生活の中に課題を見つけ、それを解決する手立てを検討し、実践する学習です。解決のためのヒントを見つけるために、図書館で情報カードを使いながら情報収集を行いました。現在、それぞれ解決に向けて実践中です。

今回は図書館を利用して探究活動を行っている家庭科・保健体育科と、これまでも長年課題研究に取り組んできた情報科をご紹介します。この他にも様々な授業で探究的な取組が行われています。

1年情報科

1年生必修科目「社会と情報」では、情報の特徴と情報化社会について理解すること、情報機器とネットワークを活用すること、情報を収集・処理・表現し効果的にコミュニケーションを行うこと、以上3つの学びを通して、情報社会に積極的に参画する態度を育てることを目標にしています。実習では、G Suiteを積極的に利用しクラウドでの作業が身につくようにカリキュラムが構成されています。ドキュメント、スプレッドシート、スライド等のアプリケーションやドライブ利用方法をクラウドの特性を理解した上で使用するように指導しています。これら「社会と情報」の学習内容は、探究ゼミ、大学受験、卒業後の研究や業務に必須のスキルとなっています。
 2学期は夏休みから取り組んできた課題研究について、レポート作成をしています。3学期はいよいよグループ発表です！

2年保健体育科



保健では、「課題発見学習」を行いました。グループでそれぞれ担当になった分野の中からキーワードを抜き出してマッピングを使ってそのキーワードに関する事象を広げていきました。さらに、広げたキーワードとSDGsのゴールを結び、一つのことが複数のゴールにつながることを確認しました。

その後、キーワードに関して書籍、新聞、白書などから情報を集め、つなげたSDGsのゴールに対して、「今自分達に何ができるか」ということを考え、パワーポイントにまとめたものを発表しました。「人に伝える」ということを意識した発表を心がけました。